

前向きに挑戦する福井の企業を応援します

FACT

ファクト > Fukui advanced companies' try

【特集】ものづくり企業「攻め」の人材活用
～マッチングや連携で事業を進める～

vol.28

STEP 1

地方中小企業経営者に対し「攻めの経営」に向けた転換・意識改革を促進

STEP 2

「攻めの経営」を実現するために必要な人材（プロ人材）のイメージを明確化

STEP 3

各関係機関やパートナー企業と連携し、プロ人材のマッチングをサポート

STEP 4

採用後も経営者、プロ人材双方に対してのフォローアップを継続



<人材戦略マネージャーの紹介>

人材戦略マネージャー	保坂武文氏	元 本田技研工業(株)
サブマネージャー	宮崎孝司氏	元 福井県工業技術センター所長
サブマネージャー	池田順治氏	元 パナソニック(株)
コーディネーター	高岡 勉氏	元 福井大学
シニアアドバイザー	白崎慎二氏	現 (株)デンソー
アドバイザー	前澤政信氏	元 福井信用金庫

機関9行、経済団体、民間の人材ビジネス事業者17社とタッグを組み進めています。我々6名のマネージャーが年間延べ約300社を訪問し、事業を伝え、企業の人材ニーズをつかみ、マッチングにつなげています。

「これまでにどのような成果が出ていますか？」
今年に入り、当初目標としていた人数を超える30名のマッチングが成約(11月末現在)しています。人材不足で転職業界は売り手市場ですが、事業所に直接聞き取りをするこ



【巻頭インタビュー】

保坂 武文氏
ふくいプロフェッショナル人材総合戦略拠点
人材戦略マネージャー

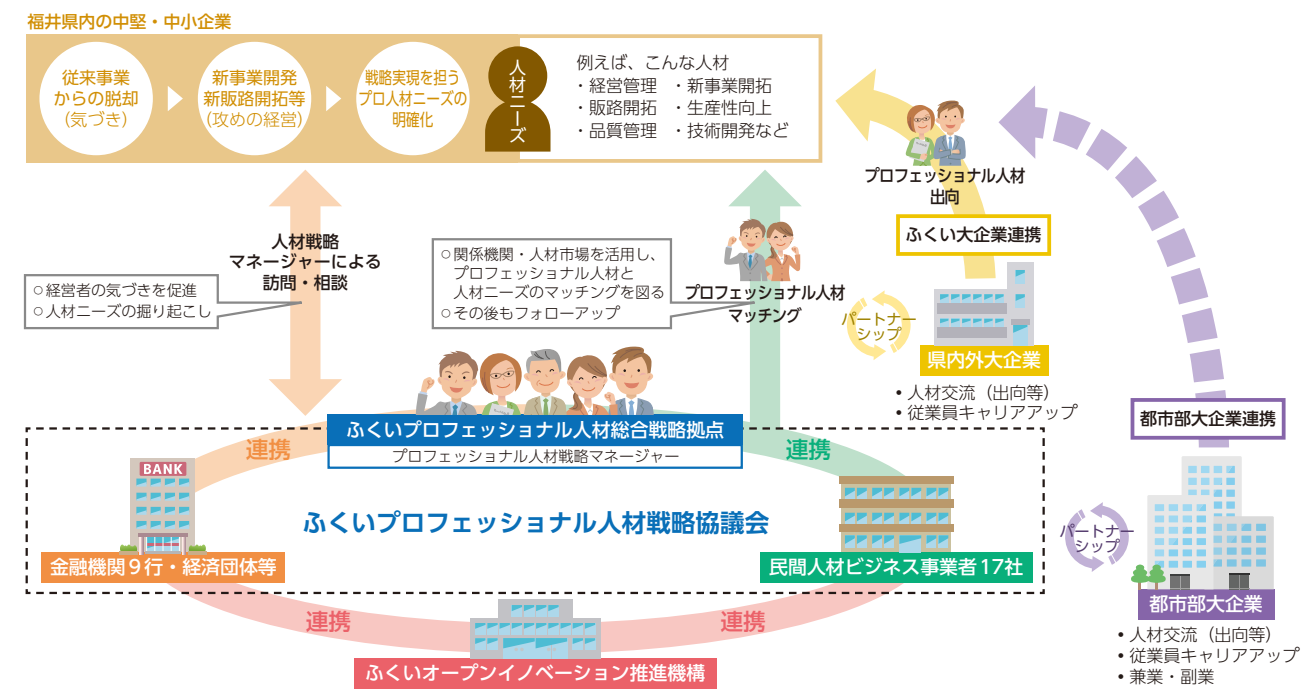
1972年本田技研工業入社。アメリカホンダR&D駐在 副社長、ホンダ栃木技術研究所 常務を歴任。CVCC環境エンジン、アコード、ステップワゴン等多くの車種開発。ホンダF1総責任者も務める。2013～2015年に福井県プロジェクトマネージャーとして多くの県内企業との関わりを持つ。

県内企業「攻め」の人材活用

～ものづくり企業、マッチングと連携で事業を進める～

幅広い業種で人手不足が深刻化し、人材の確保がより困難になっている現在。このような状況においても、企業は自身の事業を前進させていかなければなりません。そんな中、国や県の施策を利用し人材を呼び込み、新たな分野への挑戦や現場の改善につなげている企業も数多くあります。今回の特集では2つの事業「ふくいプロフェッショナル人材総合戦略拠点」と「福井ものづくり改善インストラクター派遣事業」の紹介と併せ、それらを活かした4社のものづくり企業にインタビューさせていただきました。ぜひ、今後の貴社の事業展開と施策の活用をイメージしながらお読みください。

ふくいプロフェッショナル人材戦略拠点概要



とで、ニーズに合った人物とのマッチングができるという現実性が喜ばれているのだと思います。
福井だけでなく、全国的にとでも上手くいっているようです。連携している人材会社、各社の協力はもちろんのこと、他の要因の一つに地方銀行との連携があるのではないかと私は考えています。地銀は地元企業との長い付き合いの中で、その要望や困りごと、本当に欲しい人材を見事に見抜いている。彼らの持つ情報は精度が高く、多くの成約につながっていますね。一方で、一般的に金融機関は技術の目利きに関しては不得手です。そこを技術畑出身の我々拠点メンバーが補うという、お互い持ちつ持たれつの関係が当拠点の強みになっています。

「福井県拠点独自の動きがある」とお聞きしましたが？
実は、当事業の中にある「都市部大企業連携」が福井ではあまり上手くいかなかったことが発端です。国が大手企業27社とパートナーシップを組み、地方企業の要望に合う人材を出向してくれるという事業なのですが、蓋を開けてみると、福井に来たいという人が見つからないという状態でした。そもそも転居を伴うためハードルが高い。直接大企業の人事部にコンタクトも取れず、待つだけでは辛いですよ(笑)。現在、全国事務局中心にシステムの見直しも検討されています。
そこで、県内だけで同じことをできないかと始めたのが「ふくい大企業連携」です。当拠点と福井村田製作所といった県内の有力企業が直接パートナーシップを結び、県内中小企業への出向を手助けするという取り組みです。こちらはダイレクトなサポートができるため、すぐに2社の成約につながりました。嬉しいことに、この事例がモデルケースとなり、今では全国事務局や他県でも福井のやり方が色々研究され始めています。
また、FOIP(ふくいオープンイノベーション推進機構)との連携も全国的には珍しい取り組みです。県の経済戦略の一環である「県民衛星プロジェクト」「炭素繊維複合材」「ウェアラブル」。これらの活動にプロフェッショナル人材を供給し、企業の「攻め」をサポートしています。

「読者の方へお伝えしたいことはありますか？」
企業訪問の際に感じますが、実際お金の面が課題となります。大企業と地方中小企業では給与水準が大きく違うのが現実。首都圏と比べると半分といったこともあります。しかし、大企業から来る人の多くに共通する考えは意外なものでした。ある程度給与が下がることは致し方ないが、それよりも仕事や関わる事業のレベルは落としたくないという想いです。自分のやりたいこと、知識や技術を活かせることが一番の動機になっているように感じます。
一方、経営側としては人材会社への手数料など「高い」と感じられる経営者もいらっしゃいます。しかし、良い人材は当然高い、という認識をぜひお持ちいただきたい。ましてや新しい事業をジャンプアップさせるための人です。県外の事例では、首都圏レベルの給与を出してまで採用し、会社の業績がググッと伸びたという話もあります。経営の資本はやっぱり人ですよ。

「ひとこと言うとうどんな事業ですか？」
「攻め」の経営をしたくてもできないでいる地方中小企業の経営を「人」の面から支援します」ということです。地方創生と称し数多くの施策がありますが、人にフォーカスしたものはこれまであまりありませんでした。この事業は単なる労働力の補充という意味ではなく、企業が次のステップに向かい伸びていくこととするための、核となる人物を供給する事業であることが大きな特徴と言えます。
内閣府の事業で、東京、沖縄以外の全国道府県に拠点が置かれています。その中の福井県拠点として、地元の金融

CONTENTS

01 特集 県内企業「攻め」の人材活用
～ものづくり企業、マッチングと連携で事業を進める～

- ・イントロダクション
- ・巻頭インタビュー
- ・ふくいプロフェッショナル人材総合戦略拠点
人材戦略マネージャー 保坂 武文氏
- ・拠点活用 県内企業事例
- ・セーレン(株)/オリオン電機
- ・ものづくりに関するインストラクター派遣
- ・事業活用 県内企業事例
- ・豊ファインバック(株)/田中段ボール工業(株)
- ・経験者雇用 相談窓口紹介
- ・ふくいプロフェッショナル人材総合戦略拠点
福井県シニア人材活躍支援センター
(公財)産業雇用安定センター

11 完成への道のり (南アンドン)

13 今月の注目企業 (南スターフーズ)

15 脱ITオンチ経営

16 産業情報センター入門 ふくもく会

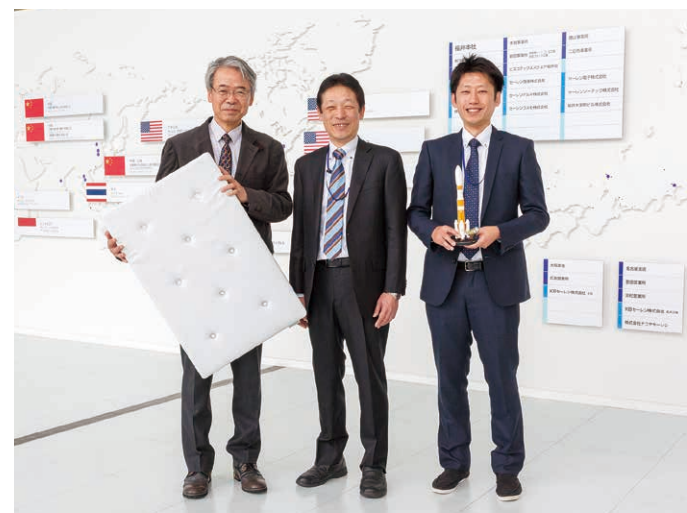
17 学びと人材育成

18 グッドデザインシンキング

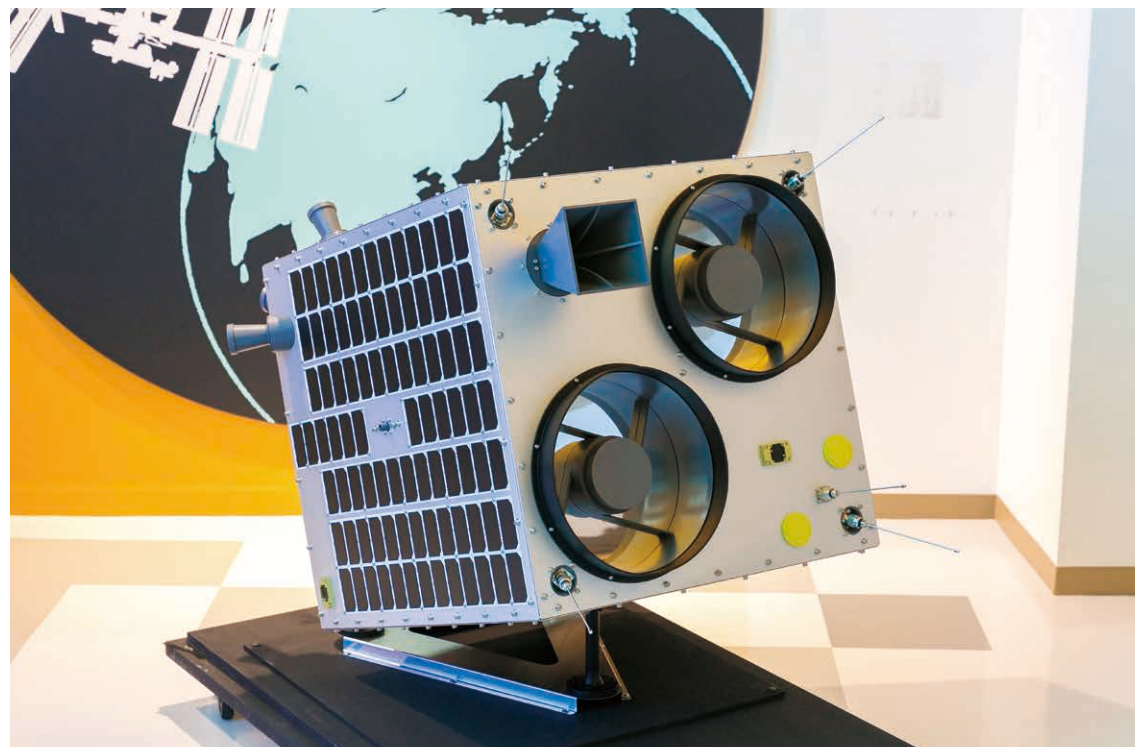
19 第1回 福井ベンチャーピッチ 開催レポート

20 インフォメーション他

セーレン株式会社
 http://www.seiren.com/
 所在地：福井市毛矢1-10-1 (福井本社)
 電話番号：0776-35-2111
 代表者：川田 達男 氏
 資本金：175億2,025万円
 従業員数：1,550名 (単体)
 事業内容：総合繊維業



山田氏、中村氏、拠点サブマネージャーの宮崎氏と3名で。



福井県が打ち上げを目指す「福井県民衛星プロジェクト」。エンゼルランドふくいにも模型が展示されています。

拠点活用で『県民衛星』の取り組みに弾み

セーレン株式会社

産学官金の連携の下、県内企業の技術を結集した超小型人工衛星の打ち上げを目指す『福井県民衛星プロジェクト』。将来の事業も見据えプロジェクトに参画するセーレン株式会社は、専門的知識を持つ技術者の確保に『プロフェッショナル人材総合戦略拠点』を活用しました。その経緯について、取締役兼執行役員員の山田英幸氏と、マッチングにより入社した研究開発第一グループの中村博一氏に伺いました。

プロジェクト発足時から社内人材の確保課題に

「実は、宇宙分野にはすでに進出しているんですよ。そう言いながら山田氏が紹介したのは、ロケット先端部の内側に使われる吸音材。内部に格納された人工衛星をロケット推進時の衝撃波から保護するための資材で、軽量でホコリが極めて少ないクリーンルーム用のウエア素材を応用しているのが特徴です。山田氏によると、H-II B、イプシロンなど国産ロケット向けに採用されているとのこと。もともと、現時点における同社の宇宙分野進出は人工衛星の「周辺」。山田氏は「当社は繊維関係のメーカーですが生産設備も自前でもかなり作っています。しかし、人工衛星そのものにかかるような知識を持った社内人材は皆無で、県民衛星プロジェクトスタート時から人材確保が課題となっていました。特に衛星の設計に欠かせない、熱の動きをコントロールできるようなノウハウを持つ人材を探していたのです」と明かします。かねてから相談を持ちかけ

概要的な話で終始することがほとんどです。しかし、中村の場合は「自分の経験を生かした仕事をしたい」という意思が固まっており、かなり踏み込んだ話をした記憶があります」（山田氏）、「学生の頃はセーレンについて地元有力企業というイメージしかなかったのですが、事業領域の話詳しく聞き、福井を離れている間に激変した会社だと感じました」（中村氏）と振り返ります。

ていた同拠点から「紹介したい人がいる」と連絡があったのは2017年1月。拠点が紹介したのが当時、大手電機メーカーで電子機器の熱流体工学を研究していたという中村氏でした。

地元紙の記事きっかけにトントン拍子で面談まで

紹介のきっかけは、中村氏が正月に帰省した時に目にした、地元紙の県民衛星特集記事でした。

「いずれ福井に戻る考えはあったので、特集記事が情報収集のアンテナに引っかかったのですね。戻ったところで経験を生かせる仕事があるのが気掛かりでしたが、宇宙分野なら自分が研究してきたことが生かせるのでは」と。正月休み明け早々に県庁に問い合わせたところ、拠点を紹介していただき、連携する人材ビジネス事業者の仲介で面談の日取りが決まりました。

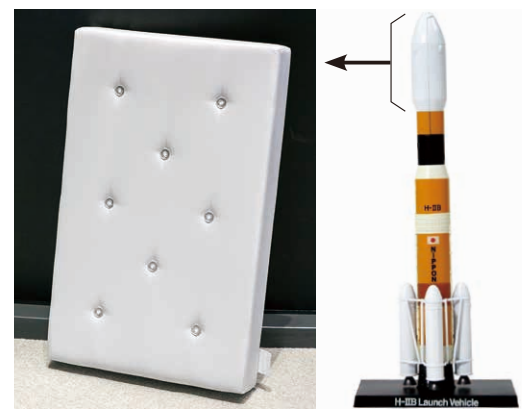
2月、山田氏と中村氏が最初の面談を行いました。2人は「通常、初顔合わせでは情報公開の範囲が難しく、会社

県内企業との交流にも目を輝かせる「プロ人材」

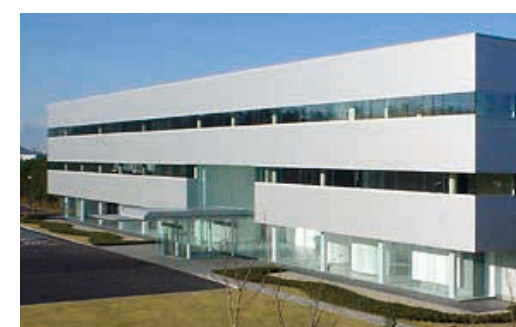
2回の面談を経て、中村氏が同社開発第一グループに配属となったのは5月半ば。「今までの経験を生かしつつ全く新しい分野に関われるということにやりがいを感じています。社外の人たちとの交流も盛んになりました。なにしろ、入社1週間ほどで東京大学の航空宇宙工学の研究室にいきなり派遣されたくらいですから」。

一方で、同プロジェクトに取り組む県内企業との交流に魅力を感じている。「福井出身なのに、優れた技術を持つ企業が地元にとくさんあるというところをほとんど知りませんでした。宇宙というキーワードを軸に、今までと全く違う思考回路で働けており刺激を受けまくっています」と目を輝かせます。

同プロジェクトの進行に当たっては、2016年8



同社の開発した衛星ロケット用防音ブランケット。ロケットフェアリング内部に装備され、打ち上げ時等の過酷な音響環境から人工衛星を守ります。



坂井市テクノポート内にある同社研究開発センター



中村 博一 氏



山田 英幸 氏

月、衛星製造や部材の研究開発などを担う組織として『福井県民衛星技術研究組合』も設立されています。同組合専務理事も務める山田氏は「人工衛星の分野は高額な評価機器が必要だったりするなど、一企業が事業として本格化させるにはまだハードルが高い。県が宇宙産業を次世代の地域産業の柱と位置付け、基盤整備をしてくれるのはありがたいことです」と話します。

打ち上げ予定までの2年間で得られるノウハウが今後の事業展開を占うとし、プロフェッショナル人材の活躍に期待を寄せる山田氏です。

オリオン電機株式会社

http://www.orion-electric.co.jp/

所在地：福井県越前市家久町41-1

電話番号：0778-23-0001

代表者：野又 恒雄氏

資本金：1億2,500万円

従業員数：1,500名（グループ全体）

事業内容：オーディオ・ビジュアル機器、LED照明機器、情報関連機器の企画・開発・設計・製造・販売・貿易、EMS事業



「人材出向支援」を新分野展開の礎に

オリオン電機株式会社

音質にこだわった液晶テレビ『極音（きわね）』など音響機器を手掛ける越前市のオリオン電機株式会社。新分野展開を進めるに当たり「ふくいプロフェッショナル人材総合戦略拠点」を活用して県内有力企業から経験豊かな技術者の確保に至りました。確保の経緯について、経営管理本部長・田中伸一氏に伺いました。



田中氏とサブマネージャーの宮崎氏。これまでも幾度と打ち合わせを重ねたといいいます。

音質の良さを打ち出した同社の新商品「極音」。他社との差別化を図ります。

人材面強化の切り札に「出向支援」事業活用

同社は1958年、大阪府で設立。1967年に越前市に拠点を移した後、2015年、事業譲渡により『プレイン・アンド・キャピタル・ホールディングス』（東京都）を新株主として再スタートした経緯を持つ企業です。

田中氏は「譲渡に当たり課題となったのは、社内の技術者がいわゆる『歯抜け状態』になっていたことでした」と明かします。「事業譲渡に至るまでに縮小傾向にあった企業を再び盛り上げるための人材・設備・資金が必要でした。とりわけ人材面の強化は喫緊の課題で、2017年の初め、拠点のマネージャーさんと県の助成金制度について打ち合わせをしていた時、決まり文句のように『優れた人材はいないでしょうか』と相談したのがそもそものきっかけでした」。

同拠点は内閣府の事業により、地域企業の、主に県外、特に都市部からの人材採用を支援する目的で、2015年11月に福井県が設置しまし

メーカー。拠点の方が間に入ってくれださるとはいえ、1回目のヒアリングでは、作る物が全く違うことから不安も感じられたのではないのでしょうか。決め手になったのは「自身の技術で未知の領域を切り開ける」ということ。新たな挑戦に魅力を感じていただけました」と振り返ります。

た。同拠点では、もう一つの軸として都市部大企業からの出向支援を行っており、福井独自で県内外の有力企業からの出向支援を進めています。そこで、出向元としてパートナーシップを結んだうちの1社、福井村田製作所（越前市）が、同社とのマッチング候補として浮上したのです。

品質保証業務を通じて製品知識蓄積につなげる

拠点スタッフは2017年3月、県工業技術センターで、両社のヒアリングの場を設定。「プロフェッショナル人材のマッチングには、進出を狙う新分野や事業目的などの明確化が理想です。しかし、人材を希望する企業が確定的な将来像を描きづらいケースもあり、両社の人事担当者が直接話をした方がマッチングの精度が上がるのでは」という判断からでした。

実はそれまでも、同社では民間人材ビジネス事業者等を通じて優れた技術者の中途採用に力を注いでいました。田中氏は「当社は最終製品メーカーで相手は電子デバイスの

の働きに期待を寄せた一方で「いきなり新事業のマネジメントといっても戸惑うのでは」という判断から、同社の品質保証本部に迎え入れることになったといえます。

「当社の品質保証レベルを福井村田製作所さんの水準にまで引き上げたいという考えからです。品質保証業務に関わることで当社製品についての知識を蓄えてもらい、その後の新事業展開につなげてもらえればと。このたびの受け入れで人事部門とも交流が生まれたことから、人事制度や福利厚生の方についても情報交換をさせていただければと考えています」。

同一県内での出向事例に内閣府も注目

全国45道府県で展開する『プロフェッショナル人材戦略拠点』のうち、同一県内での出向による人材交流が生まれたのは福井県が初めて。内閣府も今回のケースに注目しており、Uターンなどを想定したプロフェッショナル人材マッチングに加わる選択肢として位置づけています。拠点



田中 伸一 氏



スタッフは「同一県内での出向なので転居を伴わないというのも大きなメリットでは」と強調します。

テレビ事業を主軸とする同社にとって、IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）など新事業進出には異分野の知見に長けた技術者の確保が欠かせません。同社には「プロフェッショナルサービス事業」と位置づけるEMS（電子機器の受託生産）という軸もあり、同拠点活用などによる人的交流が「攻めの経営」を下支えしています。



IoTの導入、製品化にも力を入れる同社。今後の展開に注目です。

豊ファインパック株式会社

ものづくり改善インストラクター派遣 気づきを活かし生産性1.5倍を目指す

ポリ袋製造の豊ファインパック株式会社。寸法のオーダーはもちろんのこと、電子部品の梱包に最適な帯電防止機能や防錆機能など、顧客ごとの要望に応えるものづくりが同社の強みです。生産性向上に向けて、ものづくり改善インストラクター派遣事業を利用。どのような気づきを得たのでしょうか。代表取締役社長の田中利希也氏にお聞きしました。



田中 利希也 氏

全5回の派遣には、インストラクターとして窪田正明氏と長田勝栄氏の2名が参加。初回から早速、事業の簡単なヒアリングの後にしっかりと現場検証が始まりました。以降は主に、現場の担当者とのやりとりで時間を割き、まずは現状のありのままを把握していききました。

綿密な現場検証と動画の分析データから、作業者によるスピード差や工場内レイアウトによる導線の非効率といった改善要素がいくつか見えてきた中、生産ラインにある一つのボトルネックが浮かび上がってきました。同社の製品は大きく分けて、それぞれ別の断裁機械を使っている一次工程と二次工程により製造されます。しかし、一次工程のスピードが遅いため、フルに二次工程の稼働ができていない状況であり、作業待ちや仕掛品保管スペースなど大きなムダの要因となっていました。



生産性向上のため設備投資を予定している工場内の一次工程

「実は、F-FACT (vol.23)を見てこのスクールを知りました。トヨタ生産方式の藤本理論を勉強した方が実際に現場に来て指導してくれる。しかも、ありがたいことにコンサルとしては費用も非常に安いものでしたので、ぜひ習いたいと思いましたね。」

同市内の大手電子機器メーカーからの受注が好調な同社。今後、さらなる増加も見込まれており、生産能力向上が急務といえる状況でした。設備や人員、インフラ整備に積極的に投資をするなら今！と考えていたタイミングで、ものづくり改善インストラクター派遣事業の利用を決めたと話します。

受注増に備えて現場見直し 現場重視の派遣事業

「定点カメラを設置して現場の人の動きを把握するなど、他のコンサルティンクとは一味違うなと感じました。普通は座学中心だったり、現場を見て指摘をもらって終わりだったりするものですが、お二人は現場にガッツリと入り込んでいただいたという印象でした」と、序盤から派遣事業への期待を感じていた様子です。

画像からの数値化で 現場のムダが明確に

「うすうす感じていましたね、数値で見ると衝撃的でした。それまでも標準タイムを定めていたのですが、正確な把握ができていなかったと気づかされました。科学的な数値での見える化は今回の大きな収穫です」と田中氏。課題が明確になった今、一次工程の高速化を目指し、機械メーカーとの打ち合わせに取り掛かっています。

現状分析の結果や細かな改善提案が盛り込まれた窪田、長田両氏からの「処方箋」のプレゼンにより、一連の事業は終了しましたが、その後も独自に長田氏とコンサルティンク契約を結び、提案をもと

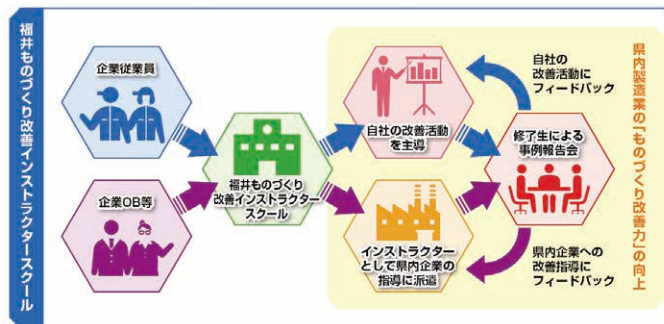


豊ファインパック株式会社
http://www.finepack.co.jp/
所在地：越前市家久町31-11-2
電話番号：0778-23-7733
代表者：田中利希也氏
資本金：1,000万円
事業内容：梱包資材製造

現場改善のプロとの連携

～ものづくりインストラクター派遣事業を活かした2社を紹介～

「福井ものづくり改善インストラクター学校^(※)」で習得した手法等を用い、現場の抱えている課題に対し、インストラクターが中心となり改善提案を策定する「ものづくりインストラクター派遣事業」。事業を利用し、生産現場改善に積極的に取り組んだ2社の事例をご紹介します。



※福井ものづくり改善インストラクター学校とは

東京大学ものづくり経営研究センターと共同開発した、講義・演習・現場実習からなる中小企業の現場のためのカリキュラム。東京大学 藤本隆宏教授によるものづくり理論をベースにしたオリジナルテキストを用い、生産効率を高める「よい設計」と「よい流れ」を作る現場改善の知識や手法を県内中小企業の中核を担う現場の従業員や、多くの現場経験を有する企業OBの方に学んでいただきます。東京大学ものづくり経営研究センターの協力による経験豊富な講師陣が担当するほか、終了後も技術向上を図り、現場の改善に活かせるよう、継続的なフォローアップ体制も用意されており、体系的に現場改善をリードする力を身につけることができるプログラムです。

昨年のスクールの取り組み内容など、詳細はF-FACT vol.23をご覧ください。



こんな悩みを抱える現場におススメ

- ・仕掛品や在庫が山積みになっている
- ・あちこち歩き回りながら作業をしている
- ・現場が雑然としていて、工具などが見つかりにくい
- ・現場改善を具体的に進めるやり方がよく分からない

- 派遣対象** 派遣により改善効果が期待できると判断できる、福井県内に事業所を有する中小企業・小規模事業者
- 派遣者** 福井ものづくり改善インストラクター学校で養成したインストラクターを原則2名1組で派遣します。
- 派遣回数** 5回以内
- 活動期間** 3カ月以内
- 負担額** 1回 2万円(税込)



昨年度のスクールでの実習の様子

昨年、第一期目の福井ものづくり改善インストラクタースクールが終了し、それに続き今年度初めて2社で派遣事業を行ないました。越前市の豊ファインパック株式会社と、鯖江市にある田中段ポール工業株式会社の現場に入り、生産工程をしっかりと調べ、それぞれの企業に「処方箋」として現場改善提案を出すという形でお手伝いをさせていただきました。

とはいえ、派遣回数は各々5回です。今回は幅広く改善するのではなく、ある工程、ある製品、ある顧客に絞って提案しました。それを元に、各企業で横に展開していただければという想いです。あくまでこの派遣事業は改善の「きっかけ」。会社の規模に合わせてこれを広げ、定着していったらいいと思います。

現場改善はエンドレスです。まずは我々インストラクターと社長さんとの信頼関係の構築ということも大



福井ものづくり改善インストラクター学校
統括責任者
窪田 正明 氏

切に考え、真剣に取り組んでまいりました。

また、現場の改善を通じて人材不足に対しても一助になれば、という想いもあります。生産効率の悪い現場で残業が多いと、今の若い人はまず来てくれません。残業をせずに売り上げをキープできる仕組みを作っていくことが重要です。これを必死になってやっていると、今後ますます人材の確保は難しくなるでしょう。

2018年3月までにもう1社への派遣が決まっています。2018年4月以降、多くの派遣事業先を募集していますので、ぜひ御社の現場改善についてご相談にいらしてください。

E-mail : monodukuri@fisc.jp TEL : 0776-41-3775



経験豊かな人材はどこで出会える？ 経験者雇用 相談窓口のご紹介

厚生労働省が発表した福井県の有効求人倍率（10月現在）は1.98倍で、東京都に次いで全国2位という状況。県内企業としては人手不足感が深刻化しており、雇用がますます難しくなっているといえます。そんな中、事業を進める即戦力となる経験者を雇用できたら、と考える経営者も少なくないでしょう。ここではシニアを含めた経験者の雇用につながる県内の窓口をご紹介します。

01 ふくいプロフェッショナル人材総合戦略拠点

地域の企業が、事業革新や新製品開発などに積極的にチャレンジする「攻めの経営」への転身を後押ししています。
※詳細は本誌P1, 2をご覧ください

- 新たな事業化等への意欲がある県内中小・中堅企業のご相談に対応します（経営体質の改善、新規市場・新規分野への参入など）
- 人材ニーズを踏まえ、民間人材ビジネス事業者と連携して求職者とマッチングします

連携民間人材ビジネス事業者（17社）

アイビーエージェント(株)	(株)アイル	アクティブイト(株)
(株)カラフルカンパニー	(株)キャリアネットワーク	(株)キャリアプラス
(株)人材情報センター	(株)スターシップ人材銀行	セーレンコスモ(株)
テンプスタッフフォーラム(株)	(株)日本雇用創出機構	(株)パソナ/パソナキャリアカンパニー
パーソルキャリア(株)	(株)ビズリーチ	(株)ヒューマン・デザイン
(株)リクルートキャリア	(株)リクルートキャリアコンサルティング	

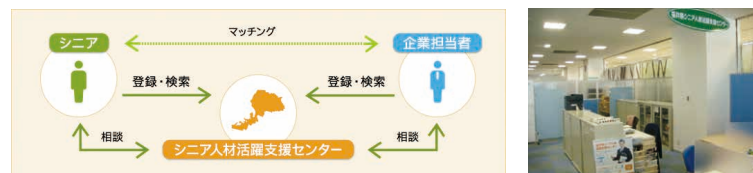


ふくいプロフェッショナル人材総合戦略拠点
〒910-0102 福井市川合鷺塚町61字北稲田10（福井県工業技術センター内）
相談時間：月曜から金曜日（閉庁日を除く） 9:00～12:00、13:00～17:00
Tel: 0776-55-1550 Fax: 0776-55-1553 E-mail: info@fukui-pro.jp

02 福井県シニア人材活躍支援センター

県内企業の人材確保と、長年企業に勤め、専門的な技術や経験を有する60歳以上のシニア人材のマッチングを総合的に支援することを目的として、平成27年10月に福井県が設置した機関です。

- 相談から求人情報の提供および人材紹介までのサービスを総合的に提供します

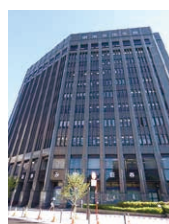


福井県シニア人材活躍支援センター（無料職業紹介事業所） 〒910-0858 福井市手寄1丁目4-1 AOSSA 7階
相談時間：火曜から金曜日 9:00～18:00、土曜日 9:00～17:30 ※事前に予約の上、お越しください
Tel: 0776-43-0881

03 公益財団法人産業雇用安定センター

経済・産業団体、ハローワーク等と連携し、全国ネットを通じて、人材の確保、従業員の再就職支援といった、企業間の人材マッチングを支援する機関です。

- 全国47都道府県に事務所があり、全国ネットでサービスを提供しています
- 離職を余儀なくされる在職者を対象に、企業間の出向・移籍を支援しています
- センター独自の求人・求職情報の提供が可能です
- 登録、相談、斡旋については一切無料です



(公財)産業雇用安定センター 福井事務所 〒910-0005 福井市大手2丁目7-15 明治安田生命福井ビル4階
Tel: 0776-24-9025 Fax: 0776-24-9045

田中段ボール工業株式会社

現場改善インストラクターの目で課題を見える化 即提案、即実行で改善につなげる



田中 耕四郎 氏

1964年創業の段ボール製函メーカーである田中段ボール工業株式会社。小ロット短納期にも柔軟に対応できる強みを活かし、同業種では県内トップクラスの業績を誇ります。かねてから第三者の目からの現場改善を望んでいた代表取締役の田中耕四郎氏。ものづくり改善インストラクター派遣によりどのような改善につなげたのでしょうか。お話を伺いました。

第3者の視点により 現場の課題を抽出

順調な受注増の一方、5年前には「キャパ越えでした」と、深夜に及ぶ残業が続いたことを田中氏は明かします。それを受け、大規模かつ一貫生産対応の製造設備を投資したほか、「社内合理化ミーティング」と称し、社内で生産工程の1分、1秒を縮めるための会議を定期的に行ってきたそうです。

「会社をどれだけ変えていくかが勝負と思いやってきました。成果も出ていました。が、内部でできることとしては『行くところまで行った』という感じでした。第3者に見てもらい、ヒントを得たかったんです」と、2名のインストラクターの受け入れた経緯を語ります。

最初の受け入れは10月。打ち合わせにより目指すゴールをすり合わせた後、早速、定点カメラを設置し現場に潜む課題を抽出していきました。調査の結果からそれぞれの工程にかかっている時間をパーセンテージで見える化。今回の派遣での改善テーマはあえ

課題に対し即実行 横展開にもつなげる

以前に導入した段ボール専用のパッケージングソフトによる、小ロット短納期対応が顧客に喜ばれている反面、手作業での印刷準備にかかる手間が課題となっていた同社。

「段ボール箱へ印字の原版となる印刷フィルムに、バラ判と呼ばれる小さな版をひとつひとつセットしていく作業です。バラ版だけで数千個もありますから、探し出すのは時間がかかります」と現場担当者。印刷フィルム・バラ版



現場リーダーとの打ち合わせの様子。

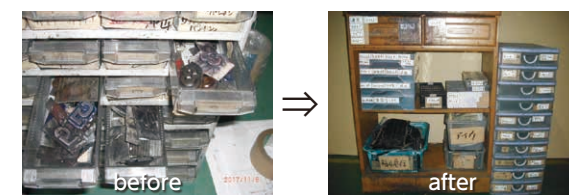
探しに、作業場内を行ったり来たりする様子がカメラに捉えられていました。

そこで、専用ソフトの過去データを参考に使用頻度の極端に少ないバラ版約500個を廃棄し、残りについても棚に層別基準のルールを設け整理整頓を行いました。同じく印刷フィルムも棚の番地を整え、さらにリピートの多い3種類は専用シートとして作成し、バラ版脱着のムダを省くことに成功しました。

「外部の人が入ることで思い切った行動ができたことが良かったですね。社長が言うだけでは動きませんから（笑）。生産効率が上がったのはもちろん、新人や他の仕事を担当する人が手伝えるようにもなりました。これまでは

熟練作業者の3K（カン・コツ・ケイケン）に依存している部分が多かったことも実感させられましたね」と成果について話します。

今後も、他工程への展開や作業指示の電子化、データベースの見直しなど、テコ入れしたい課題は山積み。継続的なコンサル契約を結び、ひとつひとつクリアにしていく予定の田中氏です。



バラ版の棚整理。使用頻度や種別に区分し、誰でもが分かりやすく。

田中段ボール工業株式会社
http://tanaka-dbox.co.jp/
所在地：鯖江市宮前2-3-42
電話番号：0778-51-1939
代表者：田中 耕四郎 氏
資本金：1,000万円
事業内容：段ボールケース、段ボール製品の企画製造等

完成への道のり

商品はどのようなプロセスで完成されていくのか。企業によるアイデアの創出から新商品誕生までの開発ストーリーを紹介します。

祭事やイベントを照らす コードレスLED照明器具

有限会社アンドウ



馬淵 保生 氏

防水性と安全性を持つ どこにでも置ける光源

防水性のあるコードレスのLED照明器『螢の華』。乾電池を使うため配線が要らず、屋外でも使えるやさしい色合いの光源として、全国の祭事やイベントで利用されています。ホームページでの通信販売は、小浜市で洋品店を営む有限会社アンドウの代表取締役社長 馬淵保生氏が担当。『螢の華』の開発・製造を担当する株式会社サーマルプリンタ研究所代表取締役社長 岡本崇司氏との出会いや、「ふくいの逸品創造ファンド」を活かした商品化に至る経緯などを、馬淵氏に伺いました。

宵闇に浮かび上がる提灯が、勇壮な山車を照らしたす幻想的な日本の祭。そうした祭の提灯に、防水性があり、熱を持たず、どこにでも置ける光源として、馬淵氏と岡本氏が共同開発した乾電池を使ったロウソク型LED照明器『螢の華 ロウソク灯りシリーズ』が使用されています。「ロウソクは風などで提灯に引火する危険性があり、最近は電球やLEDなどに置き換わってきています」と語る馬淵氏。他にも、高さ4.5センチの円筒型で重力センサーによりひっくり返すだけで点灯・消灯ができる『かぐやシリーズ』などを展開。靖国神社のライトアップイ

ベント「みらいとてらす」や美山かやぶきの里の「雪灯廊」をはじめ、全国のイベントで多数採用されています。

「最初に作った商品は、LEDを和紙に漉き込んだもの。これはモノは良かったけど、値段が高くて売れなかつた」と振り返る馬淵氏。そこで、5年前からネット販売で『かぐやシリーズ』を、その2年後にはお客様の要望によりロウソク型のLED照明器『ロウソク灯りシリーズ』の販売を開始しました。知多半島の『半田山車祭り』に使われると、祭の画像をホームページで見た全国の自治体やイベント会社などから引き合いがくるようになったそうです。

技術とプロデュースで 役割分担して開発製造

実は、馬淵氏の本業は創業130年の歴史をもつ洋品店。まったくの畑違いともいえる『螢の華』の開発・販売に携わるようになったのは、岡本氏の妻が馬淵氏の高校のホーム（※）の後輩だったことがきっかけだそう。「日本でもトップクラスの技術開発者である岡本さんが、『LEDを使ってできる和のあかりを作りたいが、売り方がわからない』という話を聞いて、私の方で通販用のホームページを立ち上げました」と語ります。2人の自宅は車でわずか10分の距離にあり、毎日のように顔を合わせるように。馬淵氏がプロデューサー的な視点で使い勝手や見た目のニュア

有限会社アンドウ
<https://honoka-brand.jp/>
 所在地：小浜市小浜玉前41
 電話番号：0770-52-0055
 代表者：馬淵 保生 氏
 資本金：700万円
 従業員数：6名
 事業内容：洋服店経営、LED照明器具の販売

ンスなどを指摘し、岡本氏がそれをカタチにするという役割分担が確立したといいます。全国的に販路が広がった現在、岡本氏が外注と家族の協力で商品を製造し、馬淵氏が在庫管理から説明書の制作、検品・梱包・発送・問い合わせ

せ対応までを担当。馬淵さんは「メーカーと問屋みたいな関係ですが、技術者である岡本さんがすぐ改良してバージョンアップするので大変。進化するのはいいんですけど、そのたびホームページの内容から説明書まで変更しないと

いけないですから」と苦笑いします。

（※）縦割りホームルーム制
 学年や学科の枠を取り払ったホームルームを編成した制度

温かみのあるLEDで 日本の祭を盛り上げる

「LEDと和紙は、意外と相性がすごくいい。光が直線的なので、和紙を通すと光が拡散して明るく感じるんです。さらに、ソフトでゆらぎを作りだしているの、まるで本物のロウソクの灯のように温かい雰囲気が出るんですよ」と、人気の秘密を語る馬淵氏。

「うちは特に、伝統的な日本の祭の提灯用として売り出しています。ニッチな市場で、競合相手はある意味ない。自治体などから『こんなのがほしい』というご要望があれば、ケースバイケースでの対応もしています。単なるLEDの照明なら100均ショップからホームセンターまでいくらでもあります。『螢の華がいい』とお客さまが支持してくださるのです」。

今後は、「光源となるLED照明だけでなく、それを包むシェードなどもご提案していけたら」と展望を語る馬淵氏。若狭和紙を使ったアーテ

イストの作品などを、専用サイトで販売していく予定です。高張り提灯用のロウソク型『あかりシリーズ』や非接触スイッチで複数灯が一斉に点火するロウソク型『連灯』など、新商品も続々開発中。「ふたたび話していると、アイデアはつきません」と、今後の展望を笑顔で語ってくださいました。



雨や雪にも耐える設計に加え、プログラミングされた光のゆらぎで本物のロウソクと見分けがつかないほどの灯り。全国の祭り・イベントに採用されています。



ヒットの先がけとなった「かぐやシリーズ」(手前の3点)



アーティストによる若狭和紙のシェード。中にはLED照明「かぐやシリーズ」が入っています。

注目企業

ふくい産業支援センターの事業や施策を活かし、前向きにがんばる県内企業の取り組みをご紹介します



三越伊勢丹のお歳暮に採用される（写真左、右上）など、おいしさに高評価を得ています。

加工技術で、地元の食材を国内外へ

有限会社スターフーズ

こだわりの冷凍技術で福井の食材を全国発信

同社の物販部は「越前三国湊屋」の屋号のもと、17年前に全国初となる焼き鯖寿司を開発。その後も食べるラー油など、多彩な商品を開発・販売してきました。

「焼き鯖寿司は、福井の食材をカタチを変えて世に出したいという社長の思いから始まったもの。そこでご飯の冷凍技術に取り組み、ある程度満足のいくものができました。その加工技術を活かせば

井もできるんじゃないかというところで、3〜4年前からまるごと冷凍井の開発に取りかかったんです」と語る中本氏。最初に販売したのは、電子レンジで加熱解凍する『三ツ星若狭牛ステーキ井』でした。しかし、商品のバリエーションを考えるなかで、甘エビな

ど福井の海の幸を使う場合、加熱解凍ではなく自然解凍が求められることになり、「ご飯を美味しく自然解凍する」という難問に突き当たったといっています。

「実は、ご飯はとてもデリケート。単に冷凍したものを自然解凍すると、白蟻化という現象がおき、真っ白でパラパラとしたごはんになってしまいます」と説明する中本氏。さらに、井の場合、具材とご飯の解凍時間が異なるという課題もありました。

「当社は、ご飯をすごく大事にしています。私自身、入社以来10年近く、自分のテーマとしてご飯の解凍技術に取り組んできました」と語る中本氏。「焼き鯖寿司も福井の

焼き鯖寿司も冷凍井もご飯の味を大事にして

特別栽培米のコシヒカリを玄米で冷蔵保管し、炊く直前に精米するなどこだわって、鯖はもちろん「ご飯が美味しい」という声をよくいただくんですよ」と反響を語ります。

そこで焼き鯖寿司の開発で培った知識と実績を活かしながら、自然解凍で具材もご飯



加工技術を広く提供し食の悩みを解決したい

現在、まるごと冷凍井は、自然解凍で食べる『越前甘えび井』や『まるごとセイコガニ井』など6種類を展開。宅配ギフトを中心に売上を伸ばしています。

具材もご飯も同時に美味しく自然解凍できる加工技術は、「他にありそうで、ないスタイル」と胸を張る中本氏。「ご飯の冷凍技術を扱うところは他にもありますが、自然解凍でこの品質を保てるのはうちだけです」と自信を覗かせます。

独自の冷凍技術でOEMでの引き合いも増やす同社。「地方の特産品を使って商品化する技術提供なども行っていま

有限会社スターフーズ
http://www.starminatoya.co.jp/
所在地：坂井市三国町楽門58-11-11
電話番号：0776-82-7607
代表者：中本 貴久氏
資本金：300万円
従業員数：14名
事業内容：特産品等の卸販売、焼肉店経営、食肉卸、食品OEM製造



中本 新之助氏



全国の食品展示会にブースを出展している同社。県外の取引きにつなげています。

この事業を活かしました

ふくいの逸品創造ファンド

県内の中小企業者等が、地域の産業が培ってきた技術、海山の豊かな農林水産物、歴史伝統など地域の特色ある観光資源等の「ふくいの強み」を活かした創意工夫のある新商品・新サービス（ふくいの逸品）の開発や、市場調査・商品開発・販路開拓などのマーケティングを応援します。

※平成29年度の募集は終了しました。

これまでの実績

平成19年度から開始した当事業は今年度で一旦終了となります。これまでに361件（総額996,752千円）の採択により、数多くの県内企業の取り組みをサポートさせていただきました。今後につきましては決定次第HPなどでお知らせさせていただきます。

【お問い合わせ】

(公財)ふくい産業支援センター
ふるさと産業支援部 資金支援グループ
TEL：0776-67-7406 FAX：0776-67-7429

す。当社としては、加工技術だけでなく、根幹となる商品コンセプトや経費面などトータルなご提案もしていきたい。全国の農家さんの6次産業化のお手伝いなどにも、どんどん活用していただきたいですね。首都圏を中心とした個食化から地方の特産品に関する困りごとまで、食の悩みを当社の加工技術で解決でき

たらと思っています」と熱意を示します。
「最終目標は、自社ブランドを国内だけでなく海外に発信すること。『一番星』という名にかけて、『食品業界の一番星になって、人々の食卓を明るくする』というのが大きなテーマです」と笑顔で語ってくださいました。

苦手意識克服！ 脱ITオンチ経営

中小企業においてもホームページ（以下HP）での情報発信が重要性を増しています。今回は自社でホームページを作るときに利用できるツールについてお話しします。

ホームページ作成に使えるツール



ホームページって難しいですか？

現在では、飲食店を開業する場合では集客用のHPを持つことは当たり前になっていきます。新しい事業を展開したいと考えた場合でも効果的な情報発信ツールとしてHPを活用することは大変重要になっていきます。

しかし一方で、HP制作業者に依頼した場合、簡単なものでも数十万円するのが相場です。最近では、スマートフォンやタブレットにも対応しなければならず、結構な制作費が必要です。今後、さらに新しいデバイスが発売されそれに対応しなければならぬとするとさらなる費用負担が予想され、企業の負担は増えるばかりです。

それならHP制作ソフトを

買って自作すれば良いのかというところ、そう簡単でもありません。ソフトの習得にはかなりの時間が必要で、仮に簡単なHPが作れるようになったとしても、自作でスマートフォン等すべての機器に対応したデザインに仕上げるのは容易なことではありません。せっかく作っても、他社のHPと比較してクオリティが低い場合は逆に自社の信用を落としてしまう危険性もあります。いくらHPはデザインじゃない、中身だといっても、スマートフォンで見られない、リンク切れがある、ということでは良いコンテンツも効果半減です。

ブログ感覚で簡単に

それでは、できるだけ安価に、かつスマートフォンに対応したHPを持ちたいと考える企業はどうすれば良いのでしょうか。

中小企業に必要なのは、多少自由度は低くても、かかる費用が安くすんで、操作が簡単に覚えられ、多くの利用者に違和感なくアクセスしてもらえるツールです。そんなニーズに応えるものとして企業に良く使われているのが、「Jimdo」（ジンドウ）と

「WIX」（ウィックス）というツールです。この2つのツールはいずれもインターネットを経由して使用するクラウド型のツールで、いずれもブログ感覚の簡単な操作でスマートフォンにも対応したHPを作成することが可能です。どちらも、無料版と有料版がありますが、無料版でも十分ビジネス用HPとして通用するデザイン性をもったHPを作ることが可能です。

どっちを選ぶ？

このふたつのツールを比較した場合、「Jimdo」は初心者向け、「WIX」は中級者向けと言えます。

「WIX」はオシャレなデザインテンプレートをもっており、しかもデザインの自由度が比較的高いので、パソコン操作に少し自信のある方がオシャレなホームページを作るのに適しています。ただ、これから初めてホームページを作るといふ方には少し敷居が高く感じられるかもしれません。逆に、「Jimdo」は「WIX」に比べて操作が簡単ですので、パソコンにあまり詳しくない方に適しているといえます。「Jimdo」

は日本では大手通信会社KDDIが運営しており、ビジネス用途で使っている企業も多く存在している点でも安心です。そのほか検索エンジン最適化（SEO）への対策や、SNSへの対応など検討する項目はありますが、それぞれしっかり対応がされており、自作する場合との違いからみれば、それほど大きな差ではありません。

タイムリーな情報発信のために

社会は、今度ますますインターネットを介した情報のやり取りが進んでいくでしょう。それに適応するためには、企業は自らタイムリーに情報発信できるHPを持つことが重要です。それは販路拡大だけでなく、危機管理という面からもいえることです。

ぜひ、皆さまの、これらのツールを有効に活用しタイムリーな情報発信ができる環境を構築してください。

IT 研修や無料相談のお問い合わせ先
 (公財)ふくい産業支援センター 販路開拓支援部
 創業・Eビジネス支援グループ
 TEL 0776-67-7411

ふくもく会



福井県内のものづくりが好きなエンジニアやデザイナーが毎月1回のペースで集まって、自主的に開催している勉強会&開発イベント。メンバーは県内の方中心ですが、県外から参加する常連メンバーも。
<https://fukumoku.connpass.com/>

活動内容について教えてください

A 各自が自分のやりたいテーマを持ち寄って、「もくもく」と作業しています。基本、何してもOK、何時に来て何時に帰ってもOK、というゆるい感じで運営していますが、最初と最後に「やること共有」「やったこと共有」をみんなで発表することは毎回必ず行っています。

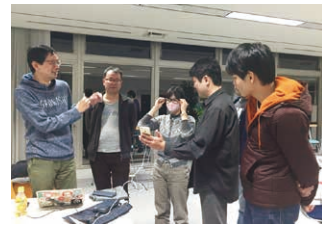
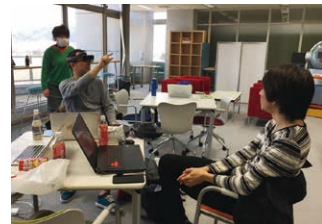
具体的にはどんなことをしているのですか？

A 自分の作りたいアプリなどの開発をする方もあれば、技術に関する勉強、

新しいガジェット(※)の体験や意見交換などいろいろです。ひとりでもくもくする方からグループでワイワイする方まで、取り組み方もさまざま。中には仕事や試験勉強など割とガチで取り組む方もいらっしゃいますね。

他のグループとの交流もあるんですか？

A 先日「Kanazawarb（金沢市拠点のIT系勉強会グループ）」さんとのコラボ企画として、双方をネット中継でつなぎし大会をしました。数ヶ月前から話し合いをして少しずつ準備をしていったのですが、両会場全員の発表



コワーキングスペースの使い心地はどうですか？

A とても快適です。IT系勉強会を開くときには、高速なネット回線と電源が確保できるかが課題なのですが、ここはどちらも完備されているのでとても助かります。また、一面のホワイトボードで情報共有したり、大型ディスプレイやプロジェクターでプレゼンしたりなど、他の設備も活用させていたれています。駐車場があるのも参加者にとってはうれしいですね。

今後の取り組みを教えてください

A 今のように、ものづくりが好きなエンジニアやデザイナーが、誰でも気軽に参加できるという形を継続していきたいと思っています。また、kanazawarbさんとのコラボのように、新しい取り組みにもチャレンジしていきたいです。

【コワーキングスペース】

～IT系の勉強会やイベントにご利用ください～

福井県産業情報センターのコワーキングスペースは、個人での利用はもちろん、IT系の異業種交流などの利用であればイベントや勉強会でのグループ利用も可能です。利用条件や申込方法はHPに詳しくご案内していますので、お気軽にご覧ください。

お問い合わせ先 (公財)ふくい産業支援センター 創業・Eビジネス支援グループ TEL 0776-67-7416

1分でわかる!!

実はこんなことしてるんです

産業情報センター入門

ふくい産業支援センターの7階にあるコワーキングスペースは、Wifiや電源が完備のフリースペースが無料で利用できる施設。今回は、コワーキングスペースで毎月1回勉強会を開催している「ふくもく会」の皆さまにお話を伺いました。

GOOD DESIGN



社会基盤システム [希望、ふくらむ トラムトレイン]

／ えちぜん鉄道株式会社 + 福井鉄道株式会社 + 福井県 + 福井市

コンパクトで持続可能な都市を目指すため、既存の鉄軌道ストックを活用し、郊外から都市中心部へのアクセス向上、南北交通軸の公共交通機関による強化を行いました。車両の相互乗り入れに必要な鉄道施設の整備、L R V車両の導入などのハード整備に加え、旅客利便性向上のための乗継割引、ダイヤ調整等を行い、自動車からの転換を目指しています。また拠点駅である田原町駅の全面刷新と周辺整備と合わせ、地域活性化の拠点整備も同時に行いました。えちぜん鉄道のL R V車両の名称は「ki-bo (キーボ)」。福井鉄道の FUKURAM (フクラム) とともに、「希望、ふくらむ。」となるようなネーミングにしました。また、田原町駅のサインは「おしゃべりなサイン」というコンセプトで、通勤や通学、周辺の施設利用などでさまざまな人が利用する駅として、にぎわいや楽しさをイメージしました。二つの鉄道会社が乗り入れする駅であり、困った時は気軽に声をかけられる雰囲気づくりをデザインで後押しします。

【DATA】

- 受賞対象名 希望、ふくらむ トラムトレイン
- 分類 社会基盤システム/インフラストラクチャー
- プロデューサー えちぜん鉄道(株)+福井鉄道(株)+福井県+福井市
- ディレクター えちぜん鉄道株式会社
- デザイナー Good Morning 三田村敦、真田悦子、清水万智

【審査委員の評価】

担当委員 | 廣田 尚子 青山 和浩 小林 茂 ナカムラケンタ 林 千晶
長い間、同じ拠点駅を共有しながらも直接繋がりのなかった福井鉄道とえちぜん鉄道が、鉄道施設の整備やL R V車両の導入、旅客利便性向上のための乗継割引、ダイヤ調整等を行って車両の相互乗り入れを実現した。車輛に関しては、今まで鉄道を使っていなかった方に知ってもらい、使ってもらおうという視点で両社共に車両の色や形、内装、名称を適切に設計し、その結果として連絡運輸利用者が前年度の約3倍という大幅増加という成果が生まれている。

第17回

グッドデザインシンキング

福井県のグッドデザインを紹介

第5回

研修効果を高めるために ～受講者の立場から～

研修を実施しても、「受講して終わり」となっている企業は少なくありません。研修は、受講者が学んだことを実践し、自身の成長や組織としての成果が見えてこそ効果が発揮できたと言えます。今回は、研修効果を高めるために大切なポイントをお伝えします。

学びの中から目標を決める

研修で学習したことは、実際の業務の中で活かされて初めて成果として実を結びます。そのために大切なことは、研修を単に知識・スキルを学ぶ場と捉えるのではなく、実際の行動に移すことを何か一つでも見つけようという意識を強く持って参加することです。さらに、目標を設定し、期限を設け、期限内に達成すべきことと具体的な行動内容をスケジューリングしてしまうことが肝要です。

経験こそ成長の源

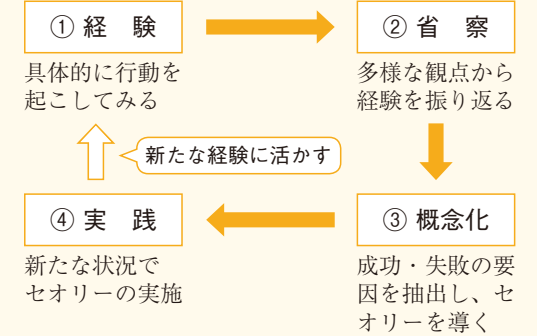
人材育成の主要な考え方に組織行動学のデービッド・コルプが唱えた「経験学習」があります。人は経験を通して学び成長していくというものであり、図のようなプロセスを繰り返し回すことで、既に学習したことの掘り起こしと新規の学習をすることができます。

特に、「省察」と「概念化」が重要です。行動の結果、失敗・成功の原因を多方面から考え、新たに気づいたこと、重要だと思ったこと、次の行動につなげようと思ったことを言語化・明文化(言葉や文書で示す)します。必要に応じスケジュールに修正を加えて「実践」につなげ、次の新たな「経験」に活かしていきます。ただし、日常業務の傍らで自分自身を客観的に振り返ることは容易ではなく、省察のプロセスでは本人の成長をサポートする方(上司等)の存在が重要。一人で抱え込まず、他者を巻き込みながら学習するという意識も忘れてはいけません(組織のサポートに関しては次号で紹介いたします)。

学びと人材育成

経営目標を達成するために欠かせないのが人材育成。ここでは、中産大(中小企業産業大学校)などの外部機関が実施する研修を効果的に人材育成に活用する方法について考えます。

経験学習モデル



また、学習効果を高める方法として「3人による学習」が効果的です。研修では教える人(講師)と教わる人(受講者)の2人による学習が基本ですが、学んだことを研修の場にいなかった第三者(部下・同僚等)に教えることで「3人による学習」が成立します。これは、「読む」「聞く」「見る」よりも「行う」ことで記憶残存率がさらに高まるという傾向を利用したもので、例えば、日頃の部下指導や受講者を講師とした社内研修会の開催などが考えられます。

今回は、受講者を支援する企業にとって、研修効果を高めるために必要なことをお伝えします。

記憶残存率	
読む	10%
聞く	20%
見る	30%
読む+見る	50%
話す	70%
行う	80%

現在募集中の研修

分野	こんな方にお薦めです	中産大研修	日にち
I T	スマートフォン、タブレットを活用して、業務改善やCS向上につなげたい	スマホ・タブレット活用講座	敦賀：1月23日 小浜：1月24日
人事	優秀な人材を確保・定着するためのマネジメントや、働き方改革の知識を身に付けたい	【公開講座】 少子高齢化時代の人材戦略	2月14日
マナー	良好な人間関係を築くためのマナーを身に付けたい	ビジネスマナー・ブラッシュアップ講座	2月15日
効率化	事務のムダ・ミスを排除し、効率化を目指したい	事務ミスゼロの仕事術	3月7日



【問い合わせ先】

(公財)ふくい産業支援センター
人材育成部(中小企業産業大学校)
電話：0776-41-3775 メール：manabi@fisc.jp

研修の詳細は
ホームページをご覧ください

中産大 検索

「ふくいソフトウェアコンペティション2017」 大賞作品決定!!

公益財団法人ふくい産業支援センターでは、県内のソフトウェア技術を担う人材の発掘、育成、確保を目的として、福井県内の学生を対象とした「ふくいソフトウェアコンペティション2017」を実施しました。14回目を迎えた今回は、大学、専門学校、高等専門学校、高等学校、中学校の学生から合計21作品の応募がありました。

<大賞作品>

「ARNet」

福井県立武生工業高等学校
三崎 雅史さん
野村 弘樹さん
永宮 正陽さん



入賞者集合写真（福井県産業情報センター）

スマートフォンをかざすだけで周辺の飲食店情報が画面に表示され、店のアイコンをタップするとその店の詳細について確認できるアプリ。Twitterアプリと連携させるなど、操作性・実用性・完成度の高さが評価されました。



審査会の模様（福井大学）

- 主催：公益財団法人ふくい産業支援センター ■共催：福井県IT産業団体連合会
- 後援：近畿経済産業局、福井県、福井県教育委員会、福井商工会議所、福井新聞社、NHK福井放送局、FBC福井放送、福井テレビ、FM福井
- 協賛：(株)アイジューピタ、(株)ignote、(株)永和システムマネジメント、江守商事(株)、(株)ALL CONNECT、(株)K2アドバンスト、(株)ネスティ、福井コンピュータグループ、福井システムズ(株)、プログラミングクラブネットワーク、北電情報システムサービス(株)、三谷コンピュータ(株)、ユニコシステム(株)（五十音順）

福井県初！本格的ベンチャーピッチイベント 第1回 福井ベンチャーピッチ 開催レポート

“福井が変わる！世界を変える！”をテーマに2017年10月、福井県内のベンチャー企業の成長を応援する、「第1回 福井ベンチャーピッチ」が開催されました。創業者をサポートする事業の一環としてふくい産業支援センターが主催したもので、県内初となる本格的ベンチャーピッチ^(※)イベントです。当日の様子をお伝えします。

<開催概要>

- 日時** 平成29年10月24日(火) 13:30~17:30
- 会場** 福井県国際交流会館
- 参加者** 90名
- 主催** (公財)ふくい産業支援センター

※ベンチャーピッチとは？

成長意欲の高いベンチャー企業に対して、VC(ベンチャーキャピタル)、金融機関等の前でセールスプレゼン(ピッチ)する機会を設け、登壇企業の資金調達や販路拡大、ビジネスマッチングの促進し、全国への足がかりをつくる機会を提供するイベント。

登壇企業・プレゼンテーマ

- ①OOKABE GLASS HD 株式会社(福井市)
「ガラス専門ECサイトから建築資材のプラットフォーム構想へ!」
- ②株式会社エムディエス(鯖江市)
「ロケーションサービスとロケ情報サイト」
- ③株式会社toitoitoei(福井市)
「就職エージェント界のユニクロになる」
- ④株式会社オクター(福井市)
「日本の川を守り、地方を豊かにする川釣り便利アプリ『FISHPASS(フィッシュパス)』」
- ⑤パワースタッフ株式会社(福井市)
「カルチャー&健康スクール『虹の森Cafe』の開設」



①大壁 勝洋氏 ②田辺 一雄氏 ③田中 次紀氏



④西村 成弘氏 ⑤濱 義弘氏



参加者の感想

- ・非常に有意義な時間であり、双方の新たなビジネスチャンスになると感じる。
- ・行政機関主催のベンチャーピッチの中で最も充実した内容・企画であった。
- ・挑戦しようとしている人のプレゼンを聞くのはとても刺激になる。
- ・ベンチャー企業の夢とサポート企業のやり取りから、ビジネスの考え方が何となくも良かった。
- ・ベンチャー経営者や実務担当者から適切なアドバイスを受けられる場の提供として有意義であった。
- ・アグレッシブな意見が飛びつつ、前向きな議論になっている所が良いと思う。
- ・またこのような機会に参加したい。自分自身の事業拡大にも活用したい。

第2回 登壇者募集中!



開催日時：平成30年3月13日(火) 13:30~
会場：ハピリンホール

「資金調達の目処を立てたい」、「販路を拡大させたい」、「ビジネスモデルをブラッシュアップさせたい」、「VC等からのコメントをもらいたい」など、更なる成長につなげたい企業のエントリーをお待ちしています。

●詳細・ご応募についてはHPをご覧ください
www.s-project.biz



企業人の学びなおしを 応援します!

仕事でできる業務が広がるなどキャリアアップにつながることから、企業人の「学びなおし」が注目されています。福井県中小企業産業大学校では、皆さまの学びなおしによるキャリアアップを応援するため、「学びなおしサポートセンター」を開設しています。



場所 福井県中小企業産業大学校 2階
開設時間 第3日曜日を除く毎日9時から21時
(夜間は、当面予約制にて開所します)

詳細は **学びなおしサポート 福井** で検索!

お問い合わせ (公益)ふくい産業支援センター 人材育成部
TEL:0776-41-3775
E-mail:manabi@fisc.jp

F-ACT読者アンケートに ご協力をお願いいたします。

(公財)ふくい産業支援センターのウェブサイトから
ご回答いただけます。

※下のQRコードで、スマートフォンからのご回答も可能です。



日頃より当誌をご愛読いただき、ありがとうございます。

今回のF-ACTには読者の皆様へのアンケートを同封しております。当誌が多くの方のお役に立てるよう、内容へのご要望などをお伺いするものです。来年度以降の参考にさせていただきますので、何卒ご協力をお願いいたします。

お問い合わせ (公益)ふくい産業支援センター 創業・Eビジネス支援グループ
TEL:0776-67-7416 E-mail:ebiz-g@fisc.jp

本誌「F-ACT(ファクト)」を活用して会社をPRしよう!

企業情報メール便

販路開拓のチャンス!
本誌にチラシを同封できます



本誌では、企業情報メール便(チラシ同封サービス)を毎月実施いたします。配送先は、県内事業所約1,700社です。この機会に、貴社の商品・サービスを幅広く紹介しませんか?

●料金

同封するチラシ・パンフレットのサイズ	料金(税込)
A4判以下のチラシ	6,480円
A4判超～A3判以下のチラシ (二つ折にしてA4判以下のサイズにすること)	9,720円
A4判以下のパンフレット(10ページ程度まで)	12,960円

*チラシ・パンフレット1種類当たり1回分の同封料金です。

●次回実施号
VOL.29 2月25日発行予定
チラシ提出締切日: 2月20日(火)
チラシ1,700部をご提出
(持参または配送) ください。

ご利用を検討の方は、事前に、電話または電子メールにてご連絡ください。

1号につき約10社まで受け付けます。

なお、申込状況および掲載内容によりお断りする場合があります。

お問い合わせ先 (公財)ふくい産業支援センター 総務部 F-ACT編集室
TEL: 0776-67-7414 e-mail: kouhou-g@fisc.jp

福井県および県内全市町では、平成28年度から、**個人住民税の特別徴収完全実施**に取り組んでいます。

事業主の皆様へ

**個人住民税は、
全ての従業員から特別徴収
してください。**
パート・アルバイトを含む

従業員の特別徴収(給与引き去り)を行っていない事業主様は、来年度から実施をお願いいたします。

手続きの流れ

- ①給与支払報告書を提出(1月31日締切)
給与の支払いを受ける全ての従業員分について、お住まいの市町村にご提出ください。
- ②6月分の給与から、引き去りを開始
5月に、各市町村から税額が通知されます。
- ③翌月10日までに、各市町村に住民税を納付

問い合わせ先 [制度について] 福井県税務課 0776-20-0257
[手続きについて] お住まいの市町 税務担当課

本誌に関するお問い合わせは

fisc 公益財団法人 ふくい産業支援センター http://www.fisc.jp/
総務部 TEL:0776-67-7414/FAX:0776-67-7419/E-mail:kouhou-g@fisc.jp
〒910-0296 福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16 (福井県産業情報センタービル内)

皆様の声をお聞かせ下さい!

「○○が面白かった、ためになった」、「△△をもう少し□□にしたらどうか」、「●●のテーマについて紹介して欲しい」、「▲▲会社がやっている■■■について取り上げて欲しい」など、本誌を読んだ感想や、要望など、皆様のご意見をお待ちしております。

編集後記

今回の特集で取り上げた「ふくいプロフェッショナル人材戦略拠点」や「福井ものづくり改善インストラクター派遣事業」、連載コーナーの2企業に活用いただいた「ふくいの逸品創造ファンド」など、国や県の施策により県内企業のさまざまな事業が成果を出しつつあります。新たなビジネスチャンスを見越し、県民衛星プロジェクトを先導するセーレン(株)や、IoTなど新たなジャンルへ挑戦を始めているオリオン電機(株)など、どの企業も目先のことだけでなく数年後、数十年後の経営を見据え、今から動き始めている姿が印象的でした。今後の取り組みから目が離せませんね。

さて、F-ACT編集部も、今後の誌面内容の向上に向けて、読者の皆様にアンケートのご協力を賜っております。毎年、誌面づくりの参考にさせていただいているのはもちろん、皆様から励みとなるコメントを数多くお寄せいただけることをとても嬉しく思っています。今年度もぜひ、忌憚ないご意見をお待ちしております。ご回答よろしくお祈りいたします。

新聞記事から集めた 県内企業の 新商品・新規事業

■収集期間: 平成29年10月1日～29年11月30日

■収集対象: 福井新聞、日刊県民福井、日本経済新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

当支援センターが収集している新聞記事の中から、県内企業の新商品・新規事業に関する記事をピックアップしました。

【食料品・飲料】	
県食品加工研究所は県内3社と連携し、食塩を使わず短期間で発酵する独自技術を活用した「にしん魚醤」を開発した。従来の魚醤より塩分控えめで独特においがないのが特徴。製造にかかる期間が短く、小規模な設備でも製造できる。	カネタツ数馬(福井市)、あさひコーポレーション(越前市)、オグラヤ商事(坂井市)
焼き鯖寿司など製造販売の同社は、焼き鯖をオイル漬けにした瓶詰め商品「サバスチャン」を開発し、自社のオンラインショップで販売を始めた。ガーリック、ジェノベーゼ、トマトの3種を用意。今後も商品ラインナップを増やしていく予定。	若廣(小浜市)
老舗しょうゆ店の同社が大野市和泉地区特産のマイタケの煮汁をふんだんに使った「舞茸ぼん酢」を開発した。マイタケ加工品を作る際に廃棄されていた煮汁を活用。うま味成分やビタミン、ミネラルなどが溶け出しており、マイルドな酸味が特徴。	野村醤油(大野市)
清酒「白龍」を製造する同社は約5,000万円を投じ、酒造りをデータ管理する仕組みを整えた。こうじ部屋の温度と湿度をリアルタイムで確認できるアプリを導入。酒米を蒸す蒸気乾燥器も圧力や時間を表示するタイプを入れ、作業を「見える化」した。	吉田酒造(永平寺町)
高浜町の鮮魚店の同社は、若狭湾で獲れた新鮮なスルメイカを丸ごと食べられるように加工した新商品「紅こいか」を発売した。7、8cmのものに絞って使い、味付けも塩のみで素材の味を生かしており、噛むほどにうま味が出てくるのが特徴。	えがみ(高浜町)
海産・農産加工品の製造卸販売の同社は、福井県産の福太夫梅や越のルビー、とみつ金時を使った3種類の寒天菓子「ふくい素材の寒天」を開発した。無着色、無香料で食物繊維が豊富な寒天を用い、透明感のある仕上がりとした。	北前船のカワモト(敦賀市)
【金属/機械】	
音響映像機器製造の同社は、高音質の中・小型テレビ「極音」シリーズ2種の販売を開始した。スピーカーやキャビネットの構造、アンプ回路を一から見直し、クラス最高級の音質を実現した。	オリオン電機(越前市)
眼鏡フレーム製造の同社は熟練工の手作業に頼っている研磨工程を自動化できるロボットを開発し、2018年中にも本格導入する。産業用ロボットを改良しアームの先端に取り付けた砥石を回転させ、フレームの表面に触れることで研磨できる。	タイホウ(鯖江市)
積雪測定センサーなどの開発を手掛ける同社が自然エネルギーでドローンの充電ができる発着台を開発した。遠隔地から自動または手動で操作して映像データを送信する仕組み。人が入れない危険な災害現場や農業の少人化に役立てられる。	山田技研(福井市)
【眼鏡】	
眼鏡枠企画販売の同社は金沢市の伝統工芸の加賀水引細工を使った眼鏡枠を開発した。水引を使った作品を製作する自遊花人(金沢市)の協力を得て、テンプルなどに水引の装飾をあしらひ、優雅さを演出している。	グラン(鯖江市)
【化学】	
オリジナル化粧品ブランド「コモエース」の新たな素肌ケア商品「como」シリーズとして、ボディソープ、シャンプー、コンディショナーを発売した。菌に含まれる天然タンパク質のセラチンを高純度に抽出・精製した「ピュアセラチン」を配合している。	セーレン(福井市)
【建設】	
マンションなど共同住宅の上階から響く歩行音などを抑制する粒状の床衝撃音低減材「サイレントドロップ」を開発した。袋詰めした低減材を天井裏に置くだけで効果があり、上階の床下工事は不要。共同住宅でのトラブルや悩みの軽減に。	フクビ化学工業(福井市)
アルミ建材製造の同社は横開きの格子状の折り戸でスリムなアルミシャッターを開発した。扉の重さが1㎡あたり3.6kgと軽いうえに、床面にレールを取り付ける必要がなく、施工や操作が簡単なのが特徴。	東工シャッター(福井市)
【その他の製造業】	
老舗洋食店の同社は、積み重ねて一度にたくさん持ち運べる、使い捨ての食品梱包容器を開発した。デザイン性に優れたアフタヌーンティースートのような立体的な形で、特許も取得。拡大する弁当市場をターゲットに需要を取り込みたい考え。	あまから(福井市)
緑化資材の企画・販売の同社は獣害対策の電気柵専用の防草シートを開発し、販売を始めた。シートに伝導線を入れることで、イノシシなどに電気ショックを強く与え、驚かせることができる。	白崎コーポレーション(鯖江市)
風船・バルーン製造販売の同社は、ヒノキの廃材を材料にしたウッドキャンドルを開発した。一般的に売られているものに比べ小型で煙が少ないのが特長。アウトドアシーンでの利用のほか、災害時の活用も想定している。	コンパス(福井市)
農機や農業資材を販売する同社は、農地や道路のり面を覆う防草シートの固定杭を開発、販売を開始した。2重らせんの構造で、強風や突風があっても杭が抜けにくい。一般的な真鍮製の金属製杭に比べて、3倍の引き抜き抵抗を持つ。	中島機械(坂井市)
ホームシアター用スクリーンの製造販売の同社は、手入れの簡単なパーペキュキット「洗う物がないんですBBQX」を発売する。台は組み立て式で炭と網の距離で火力を調整でき、持ち運び時にもかさばらないのが特徴。	シアターハウス(福井市)
【商業/サービス】	
女性衣料専門店「アクシーズ ファム」を展開する同社は、同ブランドのメンバーズ会員を対象に無料の予約制個別接客サービスを導入する。過去の購買履歴を基に専門スタッフが会員ごとに似合う洋服をそろえて出迎える。	アイジーイー(福井市)
人材派遣の同社はシニア世代向け複合施設「カルチャー&健康スクール 森のCafe」をオープンした。学び、健康、憩いを3本柱に、生きがいづくりの場を提供する。50代以上をターゲットとし、1回のレッスンは原則1時間。	パワースタッフ(福井市)
土木資材や機械の樹脂コーティング加工を主力とする同社が立ち上げたキャンプ用品ブランド「ネイチャーストーンズ」が直営店をオープンした。武骨な金属製品を加工して柔らかな質感に仕上げ、キャンプファンの支持を得ている。	みのる産業(福井市)
【情報産業】	
ソフト開発の同社はコンピューター初心者向けのプログラミング言語「BASIC」を手軽に体験できるソフトを開発した。名刺大の超小型PCボード「ラズベリーパイ」向け。2020年度に小学校でプログラミング教育が必須になるため、教材としてPRする。	ナチュラルスタイル(福井市)



知らなかった! 中小企業のどんな悩みも 相談できるなんて



**OH MY
GOD!**



それぞれの**専門家**に**無料**で**何度**でも
好きな時間に**相談**できる
福井県よろず支援拠点

マネジ
メント・
コンサル
タント

IT
コーディ
ネーター

販路開拓

料理家
・
デザイナー

弁理士
・
弁護士

海外
マーケ
ティング

まずは検索!

<http://www.fisc.jp/consult/yorozu/>



<https://www.facebook.com/yorozu.fukui/>

ご予約・お問い合わせは **0776-67-7402**



福井県よろず支援拠点

(公財)ふくい産業支援センター内
福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16
E-mail yorozu@fisc.jp